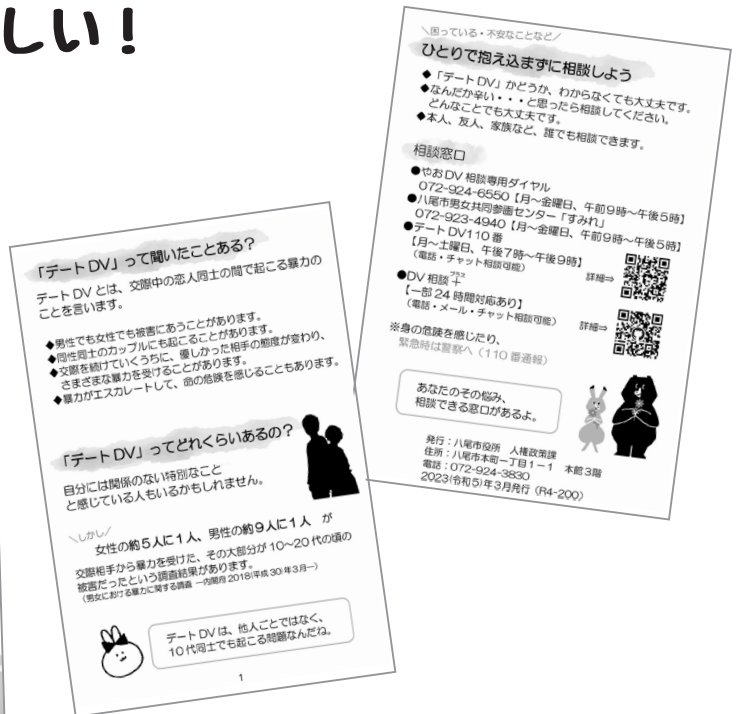


ちいき人権 World

発行
2023年度 春号 (No.110)

発行：世界人権宣言八尾市実行委員会
委員長 土田 紀康
連絡先 TEL 072-924-9853
FAX 072-924-0134
編集：「ちいき・人権・World」編集委員会

「デートDV」のことを子どもに伝えたい！ 大人にも正しく知ってほしい！



八尾市のデートDV 予防啓発リーフレットがリニューアルしました。大切な情報がたくさん入ってるので、見かけたら是非手に取ってみてくださいね。このリーフレットが必要な人に届きますように…

も く じ

- 2 P ... 「デートDV」のことを子どもに伝えたい！
大人にも正しく知ってほしい！
- 6 P 第2回人権映画上映会&講演会開催
(八尾市人権協会)
- 7 P 2022年度第19回障がい者フォーラム
- 8 P 第5回人権啓発推進委員養成研修
/ 在大阪・神戸米国総領事館ってどんなところ？
- 9 P 八尾市男女共同参画センター
「すみれ」に来ませんか？
- 10 P 相手の感情との境界線
～支援者のこころの手あて・セルフケア～
- 11 P 白根さんと考えよう！世界の人権44
- 12 P 新共有する時間は…part54
- 13 P うーさんのおすすめ本
/ じゃりちえ日記 74
- 14 P 勝手にきやらふる 74
- 15 P 2023年度じんけん楽習塾のご案内
- 16 P 歌詞紹介 / まちがいがしがし⑭

「デートDV」のことを子どもに伝えたい！ 大人にも正しく知ってほしい！

人権政策課 村田恵実さん

CAP プロジェクトやお, NPO 法人 SEAN(シーン) 梶山恵美さん

NPO 法人 SEAN 中野明子さん

世人やおでは、八尾市内のこども園、小中学校生及び職員やPTA等大人が子どもの権利を守るためのワークショップ提供を希望した場合、「子どもの権利を守るワーク事業」として費用の一部を助成しています。その提供プログラムの一つに交際相手からの暴力、デートDVをテーマにしたワークショップがあります。一方八尾市では、デートDVについて予防啓発冊子をリニューアルし取り組みが進められています。

デートDVに対する認知は広がりつつあるとはいえ、まだまだ被害を受けていることが自覚できなかったり、自覚しているものがあるすべを持たないといった当事者は少なくないのではないのでしょうか。デートDV被害を受けないためにどうすれば良いのか語っていただきました。

デートDV予防プログラムってどんなプログラム？

梶山：対象は就学前から中学、高校、専門学校生とそれぞれですが、すべて柱が決まっています。「セルフエンパワメント」、「人権力を高める」と、「ジェンダーの気づき」です。この三つの柱のもと非暴力の関係づくり、コミュニケーションをどうするか、年齢に合わせて表現の仕方を変えながら提供しています。

中野：小学生向けデートDV予防講座「みんな生き生きプログラム」が作られました。対象がおおよそ小学校3～6年生です。

2007年度パナソニックの協力でDVD教材「わたしもぼくも★みんな生き生き」を制作もしています。

就学前ワークは、絵人形使って4人の子どものそれぞれ好きなものを考えたりします。小学生ではジェンダーに気づくようなクイズをしたり、劇を通してやりとりを考えたり、サイコロ、

言葉カードを使い子どもとのやり取りを主にして作られています。

中学生は、デートDVの言葉と性の商品化を大きく扱っているのも、そこが他のワークとは大きく違うのかなって思います。

梶山：スタッフは中学生は2人、小学生は3人、就学前は2人でクラスに入り、小学生と中学生は2時間のワークです。

中野：NPO法人SEANですが、1997年に高槻市で発足しました。その時代は子育てがひと段落した人が無償で保育サポートをしていましたが、その有償化運動から始まりました。女性の人権を中心としていたので暴力の予防の取り組みにも発展していきました。

梶山：私がSEANのメンバーでもあったので八尾市でも広げたいと思い声かけをし、八尾でも「みんな生き生きプログラム」のチームができました。

パンフレット作成の背景

村田：デートDV予防啓発リーフレットの在庫が減ってきたことを機に内容をリニューアルすることになりました。過去の冊子には、「相手が嫌がるのにキスや性行為を強要する」「見たくない雑誌やビデオを無理やり見せる」など、ストレートな表現で記載されていました。中学生向きではないのではとの意見もあり、何度か内容をリニューアルする中で、現在では「同意なくからだを触られる」「性的な言葉でからかわれる」など、言葉を柔らかくして表現しています。

また、デートDVは交際関係間の暴力のことですが、最近はSNSやネットを介して出会い、交際関係に発展することも多く、知らず知らずのうちに犯罪や性被害に巻き込まれたり、薬物やアルコールを使用した性犯罪被害に遭うなど問題が複雑化してきています。デートDVの被害者にも加害者にもならないよう、早いうちから正しい知識を持って、ネットリテラシーの向上を図る必要があります。交際中はとても幸せな気持ちになり、この関係がずっと続いてほしいと思うものですが、別れることがあったり、ふたりだけの秘密がずっと守られるとは限りません。好きだからといって、相手が求める写真を簡単に送ってしまうことは危険です。別れた後に下着写真や性的な写真をネットにアップされるなど、リベンジポルノの危険性についても知ってほしいと思い、新しいリーフレットには内容を盛り込んでいます。

リニューアル版のリーフレットは、気軽に持っていただけるようなサイズにしました。配布先は、学校現場と調整し、八尾市内全中学3年生に配布したり、市内高等学校や公共施設、つどいの広場などにも配架しています。見かけられた際は、ぜひご覧いただきたいです。

ワークを受けた子どもたちの反応は？

小学生の場合

梶山：非暴力のコミュニケーションを育むかというところを小学生プログラムでは大きく扱っています。劇を二つ用意してあり、一つは暴力の

加害性を強調して作っています。「男は泣いたらあかん、強くないとだめ、やられたらやり返せ」とジェンダーが押し付けられている男の子が友だちに嫌なことをされます。まわりの友達も同じジェンダーが入っているので、その男の子が泣いてしまうと「男のくせに」とからかわれる。という劇を子どもに見てもらいます。男の子はこの後どう行動するだろう？ やりかえしたり、やつあたりをしないかな？ そうできないときは親の言う「強い男」になれない自分を責めてきらいになってしまうかもしれない。そうならないためにどうしたらいいかを子どもたちと話し合い、暴力を推奨するジェンダーは受け入れない方がいいことに気づいてもらう内容です。

もう一つの劇は、暴力の被害性を協調して作っています。とても仲良しな女の子と男の子の友だち関係を設定しています。家に遊びに来た男の子がまだ自分が読んでいないマンガを「貸して」と言います。本当は嫌だったんだけど笑顔で本を貸しました。男の子が帰った後でがっかりしてしまいます。女の子は普段から「やっぱり女の子はやさしいね。えらいね。」と大人からほめられていました。という劇を見てもらい子どもたちと考えます。なぜ本を貸したの？ 仲よしだから？ きらわれたくない？ 自分の権利も大切にするにはどうしたらいいのかを話し合っていきます。女の子ジェンダーの1つである「自己犠牲をして相手につくす女性らしさ」は自分の権利を奪われることもあることを気付いてもらう内容です。そして、この劇では子どもたちに女の子役になってもらって「本当は貸したくない」という気持ちを相手に言ってもらいます。日本では自己犠牲が美しいことだとされがちで





す。相手に合わず、自分を抑えることはよく言われるし経験も多いけれど、権利意識を持って「いや」という経験や練習が足りていないと感じます。子どもたちの気持ちの伝え方を見ていると気づかされるのですが、ストレートに「これ大事やからいややねん」というのが一番伝わります。相手のせいにして、怒ったり、誰かに言われた、などではなく自分の気持ちを素直に言うことで、伝わるだけでなく同意がとりやすくなる。これが一番大切な事で、このプログラムで目指している非暴力のコミュニケーションです。

中学生の場合

中野：中学生以降のワークはジェンダーのことと、性の商品化を大きく扱ってます。ジェンダーについてのアンケートを事前にとって授業で使います。性の商品化については「駅やコンビニとかで売られている成人コーナーではない所で、水着姿に近い状態の女性が多い本が並んでいることについてどう思いますか？」ってことを答えてもらってます。事前に聞いた結果をパワーポイントにして授業を進めていくので、本当のところどうなのか考えて気づいてもらう形の授業です。

すごく飛躍した女性のイラストを例に出して、身近なところで男性よりも女性のほうが性の対象として扱われることが多いことについてどう思うか。映像を見てもらって、アンケート結果と照らし合わせてやりとりします。性の商品化のアンケートの答えは5拓で、①気にならない、②仕事の一つ、③表現の自由、④嫌な気持ちに

なる、⑤女性への人権侵害。考えたことない子がほとんどで、①気にならない、がどこの学校でも一番多いです。

私たちが正しい情報を教えたら、その場では驚いて理解します。でも、真逆の情報がネット上では溢れています。後で子どもたちから感想をもらいますが、「そんな事言うけど、それはあなたたちの考えでしょ」って感想もあります。子どもたちのネットに触れている時間の多さも関係しているかもしれないですね。

お付き合いしている関係が多くあるクラス、性的なトラブルやネットトラブルがあったクラスでは、アンケートでは「嫌な気持ちになる」がととも増えます。学校の取り組み1つでも変わりますね。そういったトラブルのあった学校では、外部講師を呼んだりして先生たちも教育的に対応されています。

実際にDVの家庭があったり、体験として被害にあってる子はたくさんいます。でも、誰にも言うてはいけなと思っていたりして、心に抱えているものは大きいという印象はすごく感じています。

暴力の定義の話をする時、「ちょっとしんどいんで出ます」って教室から出ていく子どももいます。

加害者と被害者が同じクラスにいる、同じ学年にいるってことがあたりまえにあるので、投げかける言葉一つひとつに笑いが起こることもあります。指をさしたりとか、振り返ったりってものもあります。力関係がすごく伝わってきたりするのでよりリアルになります。

先生との連携が大事

梶山：ワークを受けると、クラスの課題が見えてきます。子どもたちの中には暴力の被害側、加害側の子もいます。その後の先生の対応は気になるところです。

中野：養護教員とは放課後振り返りをしてから帰ることが多いです。子どもの状態を伝えると、すぐに対応してくれるので協力してもらうのは大事だと思います。

子どもにも、誰か大人と繋がってほしいなど

と思いますが、いま学校の先生ってとても大変そうですね。先生だけで抱え込まずにいろいろ利用してくれたらいいのにとおもいます。

梶山：なんでもかんでも先生の責任になっている感じがある中で、このワークを受けることでまた先生が大変になるような印象があると、先生もつらくなってしまいます。

先生の負担はよく話題に上がりますが、前提としてデートDVをどれだけ理解してくれているかも重要です。それが問題の発見力にもつながるからです。先生が直接対応するのが難しくても相談先を把握していてSOSを出せるかで、先生の負担は違ってきます。

情報を届ける難しさと大切さ

村田：リニューアル版を作成する際、現場の声を反映させたいという想いから、18歳以上の市内在住・在勤・在学の方を対象にアンケートを取りました。新旧案をホームページに公開し、分かりやすいかどうか、中学生から学んでおくべきかどうか等を聞きました。ほとんど方から中学生くらいから学んでおくべき内容であると回答をいただきました。

人権政策課では、デートDV以外にも人権課題の啓発に取り組んでいますが、中学生や保護者の方向けの事業を検討する難しさを感じています。また、さまざまな啓発月間や週間に合わせて啓発していますが、情報を届ける難しさも感じています。

正しい知識を持ってもらうことと、市役所にはさまざまな相談窓口があるということを知ってもらうことが重要ではないかと考えています。いろんなところに相談カードも置いていますが、困っている方がいたり相談されたときは、自分がなんとかしなくちゃと思わなくても、相談できる窓口があることを伝えてほしいと思っています。

小学生もネットで自分の好きなことを検索したり見たりするのは得意かもしれませんが、困った時や大切なことを調べる力も身に付けてほしいと思っています。それができるようになれば、困った時に1人で抱え込むことなく、誰か



に繋がっていきけるのかなって思います。どのように判断していいのかわからずに、心と体が疲れてしまい、判断能力がなくなってからでは遅いのです。そうならないためにも、事前に知っていただけるよう、引き続き啓発に取り組んでいきます。

梶山：被害や困ったことって、そうならないと人間って動けなくて、よっぽどじゃないかぎりこの時間さえ過ぎたら…って我慢してしまいます。

中野：だからこそ、小さいときがいいですね。より良く生きていきたいというエネルギーは大人より子どもの方がいっぱいあるから、子どもに伝えるって大事ですね。

梶山：子どもに直接、それ暴力だよ、助けてって言っていいんだよって、伝えられるのが一番いいんやろうなあって思います。

中野：周りの上書きが多くてすぐに忘れちゃうので、小さい時からある一定の年齢ごとに定期的に、第三者が伝えるっていう方法がいいと思います。身近じゃない大人が、こんなに子どものことを思っている人がたくさんいるっていうのを伝えるって大事だなってプログラムを届けながらすごく実感します。

梶山：八尾で「みんな生き生きプログラム」を実施してくれる学校ってまだ少ないんですよ。毎年1校くらいです。一度実施して知ってくれた先生がいると、また呼んでくれたりするんですけどね。今は世人やおで助成をしていただけているので金額負担もとても小さいですから、これから実施してくれる学校を増やしたいと思っています。

第 2 回 人権映画上映会 & 講演会開催

今なお根深く厳しい差別の現実が残る部落差別。昨年 3 月 3 日が、部落差別の解消と部落差別からの解放を求めた全国水平社結成から 100 年目にあたることから、60 年ぶりに映画化された島崎藤村不朽の名作『破戒』。その映画上映会 + 岡知彦さん（部落解放同盟西郡支部長）のミニ講演会を 3 月 25 日に開催しました。映画『破戒』は明治後期を時代背景とする、今から 100 年以上前の部落差別の状況を突きつけていますが、岡さんの講演では、態様は違えど現在のしかも八尾市内で発生している部落差別について紹介し説明があり、改めて部落差別の厳しさ、当事者の苦しみを考えさせられました。



【参加者の感想文から】

- 部落差別について、知識を深めることができました。
- まだまだ現在も部落差別があり、なくしていくために我々は、差別解消のため、啓発、教育をしていくことが必要と思います。
- 大変良い機会であったと思います。もっともっとたくさんの人が参加してくれたらいいなと切実に感じました。
- 有意義な場となりました。映画の中でも「差別は簡単に無くならない」という話がありましたが、その通りで、様々な運動や取り組みが行われていますが、今もなお差別はあります。これからの社会を担っていく児童、生徒たちへ正しい知識を身に付けてもらえるよう、しっかりと教育を引き続き頑張りたい。いつか差別がない世の中にしたい。
- 島崎藤村の「破戒」は名前は知っていても読んでいたことはありませんでした。映画も観たことがなくて、本日観させていただけてうれしかったです。映画にはとても感動しました。同じ人間として差別は絶対にいけないことだと再確認しました。差別のない世の中にしていかなければならないと心から思います。自分のできることは小さなことですが、まず、自分から差別を許さないという思いをしっかりと持ち続けたいです。
- 差別問題はほんとうになくならないのだなあと感じた。八尾市で生まれ育ち、人権学習もうけて育ったのに人間のおろかさを感じる。
- 差別があったこと、知ってはいましたが、詳しくは知りませんでした。この映画で部落を知り、今も続いている現在にとっても胸が苦しくなりました。それでも進んでいく強さ感動しました！



2022（令和4）年度 第19回障がい者フォーラム

障がい者の社会参加を促進し、多くの人に障がいへの理解を深めてもらおうと、令和5年3月3日（金）と4日（土）に、アリオ八尾で「第19回障がい者フォーラム」を開催しました。この催しは、障がい当事者やボランティアが障がい福祉の充実に向けて協議し、障がい当事者自身が様々な取り組みを実践する「八尾市障がい者基本計画ワーキング会議」の取り組みの一環として、障がい者理解の推進等のために行われているものです。

障がい者フォーラムの開催概要は以下のとおりです。

日時：令和5年3月3日（金）、4日（土）

10時～16時

場所：アリオ八尾2階オレンジコート、
八尾市情報発信コーナー、
3階カワチラボ 他

内容等：障がい者の日常や趣味などの紹介動画の放映 / 八尾市内障がい者作業所の販売会 / 障がい児者の作品展示 / 来場された方への記念品 / （作業所製品等）のプレゼント / バルーンアートなど

○障がい者の日常や趣味などの紹介動画の放映

「八尾市障がい者基本計画ワーキング会議」のメンバーである障がい当事者が出演し、日常生活やスポーツなどの趣味の様子を動画にしています。

動画を見ていただいた方からは「身近に障がいのある方がいないので知らないことが多かった。趣味をいきいきと楽しんでいる様子が印象的でした」「すごい一言でした。新しい発見がたくさんありました」などの感想をいただきました。

○八尾市内障がい者作業所の販売会

障がい者作業所とは、障がい者の方に働く場を提供する施設であり、様々な仕事を各作業

所で日々行っています。今回の障がい者フォーラムでは6つの作業所が出店し、各種小物、紙製品、布製品、クッキーやパンなど、たくさんの商品を販売しました。各商品はどれもしっかり作り込まれており「とても良い商品だね」といった声が多くありました。アリオ八尾での販売会は初の試みでしたが、参加された作業所の中には、早々に商品が完売したところもあり、たくさんの方にご来場いただきました。

○障がい児者の作品展示

八尾市立障害者総合福祉センター、八尾しょうとく園、いちょうに通う方々が制作した作品を中心に、書道・絵画・陶芸などのバラエティに富んだ作品を展示しました。アリオ八尾は週末多くのお客さんが来られることもあり、たくさんの方々に興味を持って作品を見ていただきました。出展された方もたくさんの方に見ただけ大変喜んでいました。

この障がい者フォーラムは、八尾市障がい者基本計画ワーキング会議のメンバーである障がい当事者やボランティア、支援者の方々が主体的に実施しているものであり、コロナ禍においても引き続き取り組みを継続するための手法として、動画作成などの提案がありました。今回作成した動画の内容や構成についても出演者ご自身で考えたものとなっています。

障がい者フォーラムの開催や動画をより多くの方に見ていただくことで、少しでも障がいを身近に感じていただきたいと思います。

動画はYouTubeの「八尾市公式チャンネル」で公開しておりますので、ぜひご覧ください。

『【八尾市】実はこんなこともしています：知らなかった障がい者の日常と趣味』

<https://youtu.be/sjZBmMbKRGQ>



【作品展示】



【動画放映の様子】



【作業所販売会の様子】



【動画のサムネイル】

～八尾市人権啓発推進協議会 2022(令和4)年度 第5回人権啓発推進委員養成研修～

テーマ：「改正障害者差別解消法とインクルーシブ社会～国連・障害者権利条約の対日審査をふまえて～」

講師：DPI(障害者インターナショナル)日本会議 副議長/内閣府障害者施策アドバイザー 尾上浩二さん

【YouTube 配信での開催】

配信期間：2023(令和5)年2月14日(火)～2月28日(火)

【会場での開催】

日時：2023(令和5)年2月14日(火)午後2時～午後3時30分

場所：八尾商工会議所3階 大ホール1

八尾市人権啓発推進協議会は、差別のない明るいまちづくりの推進に向け、さまざまな取り組みを進めており、各地区福祉委員会に5名置かれている「人権啓発推進委員」の人権意識の高揚を図ることを目的として、毎年、年5回「人権啓発推進委員養成研修」を実施しております。

今年度第5回となる今回は、テーマを「改正障害者差別解消法とインクルーシブ社会～国連・障害者権利条約の対日審査をふまえて～」とし、DPI(障害者インターナショナル)日本会議 副議長/内閣府障害者施策アドバイザー 尾上浩二さんにご講演いただきました。なお今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、YouTubeでの動画配信と会場での動画上映会の2つの実施方法で開催しました。講師自身の経験にふれながらのお話を通じて、社会にある障害をなくし

ていくことの重要性などをお話しされ、障がいのある人の人権について理解を深めることができた研修となりました。

【参加者の感想】

・「障がいの有無によって分け隔てられない共生社会の実現」はとても大切なことであると再認識しました。

・合理的配慮をするなど、障害者差別解消だけに限らず、様々な場面で必要となってくる考えだと感じた。一人ひとりがこの考えを知っていくことが世の中に^{つが}番っていくと思いました。

・「無関心こそ最大の障壁」という最後の言葉がとても印象に残りました。これからもいろいろなことに関心を持ち、一つずつ対処して進んでいきたいと考えています。

在大阪・神戸米国総領事館ってどんなところ？

八尾市はアメリカ合衆国ワシントン州ベルビュー市と姉妹都市提携しており、青少年交流や文化、教育、スポーツ交流を通して、国際感覚の豊かな人材育成や多文化理解により広がりのある地域社会の形成に向けて取り組みを進めてきました。

ベルビューと市民間での交流を進めていただいているのが今回のイベントを企画した八尾市姉妹都市提携協会です。コロナ禍で、交換学生や視察団の受入れ・意見交換などができなくなり、海外の文化に触れ、国際理解を深めてもらう機会が少なくなってしまうことから、国際社会で活躍してみたい、留学してみたい、と思ってもらえるきっかけを作りたいと考えて企画されました。

当日は、43人の中学生・高校生が集まり、普段入ることのできないアメリカ総領事館の中で、国際的に働く人たちの話を聞いて刺激をもらいました。「アメリカは好きなことを探求できる場所」という説明を受けて、留学に興味を持った子どもたちもいました。今回のイベントをきっかけにアメリカ留学を志し、そのような学生を通して、八尾市とベルビュー市の絆がさらに深まっていくことを願っています。



八尾市男女共同参画センター「すみれ」に来ませんか？

性別に関わらず、孤独や不安を抱える人が元気になれる場所として、男女共同参画センター「すみれ」がますますパワーアップしています。

男性も相談できるようになりました！

～「すみれ」相談室～

すみれではこれまで、「女性相談」として、ジェンダーに起因する悩みや、固定的な性別役割分担意識による心理的な生きづらさに対し、自己実現のための心理的な援助や、相談者が抱える課題の解決に向けて、ソーシャルワークによる支援を行ってきました。しかしながら、男性もまた、「男らしさ」といったような固定観念にとらわれて、「男だから黙って我慢する」「男子は泣かない」など強くあることを求められることで、助けを求めにくかったり、SOSを出せなかったりすることがあったのではないのでしょうか。

人生100年時代、家族の形や生き方が多様化する中で、悩みや課題も多様化し、複雑化する傾向にあります。また、孤独や不安を抱えるリスクは性別に関わらず誰にでもあります。男だからといって、悩みを一人で抱え込まなくてもいいのです。「男だから」感情を抑えるべき、「女だから」家事を担うべき、そういった性別による無意識の思い込みや抑圧感から解放され、誰もがほっと一息つける場所が男女共同参画センター「すみれ」です。

ちょっと話すことで気が楽になった、心に余裕ができたなら前向きな気持ちになった、新しいことを始める気力がわいてきた・・・そんな好循環が生まれるかもしれません。1回50分、予約制です。まずは「すみれ」にお電話ください。

いつでも気軽に立ち寄り、元気になれる場所
「ふらっとすみれ」

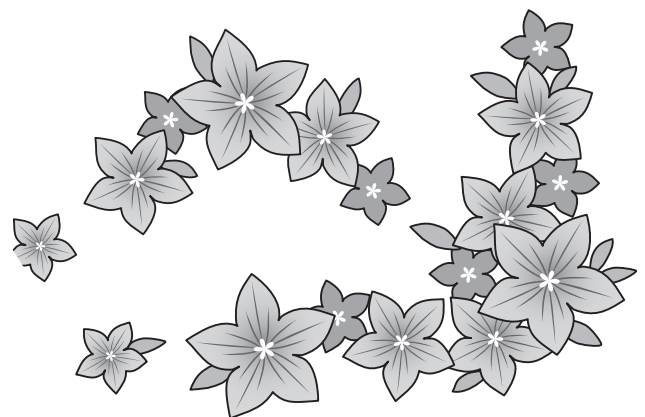
女性が前向きに社会とつながり、自分らしく一歩を踏み出すことを後押しするために、昨年

10月からスタートした「ふらっとすみれ」。無料のマンツーマンパソコン講座も大人気です。キャリアコンサルタントの資格を持つスタッフによるアドバイスも受けることができますよ。さらに今年は、就労支援の取組みとも連携し、パソコンスキルを身に着けて就職を希望される方を丁寧にバックアップしていきます。

また、毎月開催のすみれカフェにもぜひお越しください。少人数で楽しくおしゃべりしましょう。お一人の参加も大歓迎です。「すみれ」スタッフがファシリテートしますので、安心してご参加ください。楽しくつながり、リフレッシュしましょう。

災害備蓄品を活用した生理用品のお渡し

社会問題にもなった「生理の貧困」。女性にとって心身の健康だけでなく、尊厳にも関わる重要な課題です。男女共同参画センター「すみれ」では、女性特有の課題を一人で抱え込むことのないよう、災害備蓄品を活用して生理用品のお渡しを行うとともに、お困りごとをお聴きし、必要な支援につなげます。周りにお困りの方がおられたら、この取り組みをお伝えください。



相手の感情との境界線～支援者のこころの手あて・セルフケア～

2022年3月5日、NPO法人KARALINとCAPプロジェクトやおの共同企画で、八巻香織さんを講師に招いてリモートで学習会を開催しました。

特定非営利活動法人TEENSPOST代表理事をされてる八巻香織さんは、世代やさまざまな違いをこえて、共に生きるための心の手あて、感情リテラシー、アサーティブネス、非暴力、家族ケア、支援者のセルフケアをテーマにした学びを企画運営されています。

今回は支援者のセルフケアをメインに感情について学びました。12個のさまざまな感情にはきちんと理由がある。ギャオス、オドオド、ムツリ、アサーティブと自己表現タイプを4つ

に分類し、わかりやすく寸劇を加えながら、自分がどのようなとき、どの表現で相手に伝えるか考えるきっかけとなりました。アサーティブに気持ちを伝えるために、「DESC」という方法も知りました。支援者としてだけでなく、自分自身を振り返る大切な時間になりました。



【参加者の感想】

●濃い内容で、わかりやすく、自分の「感情」に焦点を当て 過去の出来事のグリーンワークということが出来そうに思います。RPGの主人公が武器を手に入れて、レベルアップした気分です。感情と境界線 それがひととの信頼関係を築く上で重要。これがわからない男たちが 大きな声と顔で 競争や勝負する大阪 草の根のつながりで 私たちはこれでいきます。と、楽しくみんなが こっちがいい！ というやりかたで やっていきたいと思います。

●子育てひろばでの支援者として、参加しましたが、自分自身が思春期前の子どもの子育て中ということもあり、いろいろなお話を聞くなかで、自分の子育て体験が重なって思い浮かぶことが多かったです。自分の子どもに対する時は、自分の中には「ギャオス」と「ムツリ」が大きく存在していると感じました。広場内で、利用者さんに対応しているときは、それらは出てこないの、自分自身もいろんな顔があるのだろうと思います。DESC法を用いて、アサーティブに指摘していくことは、

やはり練習も必要なので、心掛けていきたいと思います。「びっくり、びっくり」と自転車に乗りながら、唱えてみようかしら。と考えています。境界線は壁ではない、というお言葉が、はっとするお言葉でした。ありがとうございました。

●とてもわかりやすく、あっというまの時間でした。最近濃く支援というサポートすることも多く、アサーティブを1から知りなおせた気がします。さびしいが自立に必要な感情。疲れた時には寝るだけでなく、他の楽しみもみつけれられるようにしておかないと、寝て起きてただだと、依存にすすむことがあるかも…。不安は期待とつりあっている。感情をとじこめたら→うらみになる、など…。しんどさを抱えてるひとのこれまでが、この講座でひもとかれた気がしました。私にできることがありそうな気がします。私ももっともっとお話しが聞いてみたいです。日本中の支援者、先生が聞いてくれたらみんなもっと生きやすくなるのになあ。ありがとうございました。



自由権規約委員会フォローアップ評価

国連人権条約の中でも核をなす自由権規約、2023年3月の段階では全国連加盟国中173カ国が批准しています。これら条約に加盟した国による規約の履行を監視するのが自由権規約委員会、毎年3回スイス、ジュネーブで行われる会期を通して条約加盟国の審査などを行なっています。この自由権規約委員会の第137会期が2023年2月27日から3月24日まで開催されました。この会期ではエジプト、パナマ、ペルー、スリランカ、トルクメニスタン、ザンビアという条約加盟6カ国の審査が行われ、これらの国による条約の履行について、前進した点や懸念事項、それらに関わる勧告が委員会から出されました。このような条約加盟国の審査は自由権規約委員会の主要な機能の一つですが、審査を通して出された勧告を履行するために加盟国がとった行動を評価する、いわゆる「フォローアップ制度」も審査サイクルを通して自由権規約のより包括的な履行を進めるため重要な機能の一つです。

自由権規約委員会のフォローアップ制度では、審査を通して出された勧告のうち特に緊急度が高いものや数年で完全な履行が可能と見られるもの（通常2つから4つの勧告）がフォローアップ評価の対象として選択します。これらフォローアップ制度に選択された勧告について、当該国政府は履行のためにとった行動を審査後3年のうちに委員会に報告するよう求められます。審査の場合と同様、委員会は政府からの報告書に加え、その他関係者、特に市民社会からの報告書をもとに、勧告履行のためにとられた行動・措置の評価を行い、それぞれに関してA（十分な履行）、B（部分的履行）、C（履行なし）、D（フォローアップ報告なし）、E（勧告に反する又は勧告を否定するような行動）という評点が与えられます。既に明確かもしれませんが、100点満点で例えればAは大体80～100、Bは1～79、CとDは必要な行動をとっていないので0、Eはむしろ逆行しているのでマイナスと言えるでしょう。

自由権規約委員会、第137会期ではこのフォローアップ制度のもと、ベラルーシ、エストニア、オランダ、タジキスタンの評価が行われました。これらの国のフォローアップとして選択された勧告、及びそれらの履行のために各国がとった措置に対する委員会の評点は以下の通りです。

ベラルーシ

- 個人通報制度で採択された委員会見解の履行 -E
- 死刑 -E • 集会の自由 -E

エストニア

- ヘイトスピーチとヘイトクライム -B、C、D
- 同意のない精神科治療 -C
- 難民と庇護申請者 -A、C

オランダ

- 人種差別、ヘイトスピーチとヘイトクライム -B
- 難民と庇護申請者 -A、B
- グローニンゲンでのガス抽出事業 -A、B

タジキスタン

- プライベートな通信の監視と傍受 -C
- 表現の自由 -E、C • 公務への参加 -E、C

条約加盟国の義務として、すべての国はAを目指した行動を求められています。諸々の事情でオールAを取るのなかなか難しいのも現実ですが、上にも述べた通り、フォローアップの対象となる勧告には緊急の行動が必要なもの、早急な履行が可能とされるものが選ばれており、各国政府が取る行動は少なくともBに値するものでなければなりません。また、勧告履行のため、微々たるものでもなんらかの行動がとられていればBを取るの実際容易なことです。CやD、さらにはEという評点は本来恥ずべきことなのですが、このような評点を出される国は後を絶ちません。今回、ベラルーシのように全てストレートにEという評点はこれまで私の知る限り初めてです。

日本の場合、前々回（第6回）審査のフォローアップには死刑、慰安婦、研修生、代用監獄に関する勧告が選ばれ、委員会からの評点は死刑に関してEとB、慰安婦に関してB、研修生に関してBとC、代用監獄に関してCとBでした。前回、第7回審査が行われたのが2022年10月、フォローアップ評価には国内人権機関、難民、庇護申請者を含む外国人の状況、子どもの権利に関する勧告が選ばれており、2025年11月までに政府フォローアップ報告書の提出が求められています。



職場に近い高安山のあちらこちらに淡いピンク色が見えるようになって、春到来です。高齢者ご夫婦が営む午前中だけ開店の小さなお店で、ケイオウザクラの花枝を買いました。午後は高安山で花木の切り出しもされています。玉串川のソメイヨシノも見頃になって、我が家に活けた桜からは葉が育ち、緑の枝に変わった後も楽しんでいました。

Kさんからはがきが届きました。夫Mさんが昨年夏炎天下の活動で体調を崩し、晩秋より療養していたけれど、この3月に永眠されたとの便りでした。突然の訃報に驚きました。長年、自転車で通る「やまんねき」の道の途中で車から声をかけてくれたり、自転車ですれ違ったり、八尾の「ふとん太鼓」の祭り時その他でお元気にカメラを向けている姿を見かけていました。

Kさんとは、以前に八尾市公募の環境を考える活動（環境ライフデザイナー）に参加し、終了後に立ち上げた環境グループ「エコライフ八尾」で一緒に活動もしていました。夫のMさんはKさんの協力もあり、地域に根差した保全活動をしながら楽しい空間作りをすすめて来られていました。写真や絵・イラストで高安山の美しい自然や八尾の風景を市にも協力しながら発信を続けて来られていたのです。我が家にも写真Mさん、文Kさんの写真集「高安山を歩いて」「また あした」があります。このちいき・人権・worldにも「高安山で春事」の文章を掲載していたのを思い出しました。2008年春号でした。内容は…。

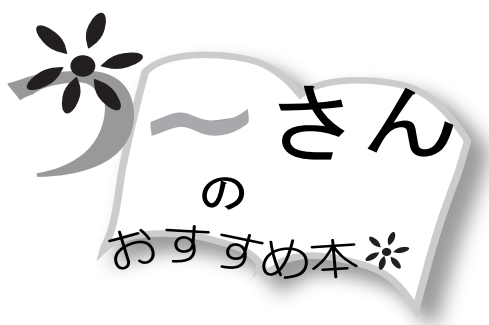
Kさんから「玉祖神社（八尾市神立）横に菜の花広場が出来たので、お弁当を持って出かけ

てきませんか」と電話がありました。「春事に行かせてもらいます」と返事をして、3/29に高齢者ふれあい給食のボランティア仲間5人で出かけました。菜の花迷路の横で山側のサクラからは時折お弁当に花びらが舞い落ちる中、おしゃべりをして「春事」を楽しんでいると、Mさん・Kさんご夫婦が水やりや手入れなどで様子を見に来る姿がありました。…後日、はがきに描いた「春ごと」を楽しむ私達の絵と写真が届きました。

雨の中、職場の施設横を流れる山畑川を燕が飛来するのを確認したのが4月7日。Mさんへの手向けにと、ケイオウザクラを買った花屋さんに高安山で切り出した花がないか訊ねに行きました。もう時期が終わっていて高安山の花木の花枝を買うことができませんでしたが、少し花束をお願いして、翌日の土曜日午後にKさん宅を訪ねました。

花々に囲まれたMさんの写真を見ながら、KさんからMさんのことを伺いました。昨年秋から体調を崩して、施設入所や入院もしてこれていました。そんな中でもイラスト集「うちの畑?から」文・Kさん（2022.11.5発行）を作成しておられたのです。1冊頂きました。FMちゃお発行の「八尾の4つの街道周辺と 近鉄八尾駅前の風景」の冊子も。もう1冊、素敵写真集「恩智川 カルガモのお話」を見せてもらいました。カルガモに出会って66日の記録が描かれています。2013年5月26日～7月30日のカルガモ親子たちのドラマです。この写真集を見たのは初めてでした。帰宅途中で山本図書館に立ち寄り、図書貸出で自宅に持ち帰りました。写真Mさん・文Hさんのこの写真集（36ページ）に見入ってしまいました。毎日恩智川に出かけて行き、写真を撮り続けたMさんの姿が浮かぶようでした。Mさん（牧江良亮さん）逝く、思い出深い春となりました。





図書館で出会った『何食わぬきみたちへ』。割と薄い本だったので、軽い気持ちで借りたら、心がヒリヒリする本でした。

サンコーには、特別支援学校の分教室がある。その分教室に通う生徒を宇宙人と呼んで、「菌」遊びを仕掛けようとするクラスメイトの古川。誰もそれを避けようとしなくて、大した反応も示さない。密かな笑い声。そこにいる伏見は、とても不愉快で笑う気分にはならなかった。ざらざらした悪意で満ちていく教室の空気を変えたのは、「やめろよ」と正面から言葉をぶつけた大石の一声。ヒューと誰かが口笛を吹く。「大石かっこえ〜」「よくやるよな」・・・「でもさ、古川相手にあんなマジになる事ある?」「それな」と女子が笑う。

実は伏見も「よくやるよな」と思ったのだった。でも口にも表情にも出さなかった。

その後、いじめ問題で分教室制度が一時的にストップした。古川は学校を辞めた。

3年後、大学生になった伏見と大石は部活OBとして母校を訪ねる。

そこで出会った、当時分教室にいた生徒の妹の後輩、敦子に言い放たれた一言。「何でそんな、何食わぬ顔できるのかなって」「向き合わずにいられて、安全圏で生きられて、いいな」

時系列が今と高校時代と行ったり来たりするので、少しわかりにくいかもしれませんが、最後まで読んでみてください。



『何食わぬきみたちへ』
新 胡桃 著
河出書房新社



じゃいちえ日記

VOL74

2022年振り返り

コロナ禍も3年。たまに周りでは、コロナに感染したとかを耳にするが、日常生活を送る為には「ヘルパーさん」などの支援がなければ、「生活」が難しくなってくる。

この頃、私も20・30代とは違い、体もうごきが悪くなってきているけれど、できる範囲で動かす。気をつけたいけれど日ごろの体調の具合もあり、1人である時に家の中で転倒が増えつつある為。

新年も自宅での生活は、こけないように心がけたい。ここ約3年ぐらい「リハビリ入所」はしていない、「ヘルパーさんから入らないの?」尋ねられることもある。何故かはコロナ禍なので躊躇してしまうのと、私がインフルエンザやコロナに感染していないか気になってしまうのと年度末にさしかかり、資料作りなどでアタフタすることが目に見えているから。1度経験しているので気が気でない。「何をやるにしても人の倍の時間がかかる為」、合間を見てする。

雨降りの中、出かけることも躊躇する。体が痛くなる原因もわからないまま、日々を過ごしている。どうにもならない体にむちを打ちながら、だましていくしかないと思う今日この頃。

勝手にきゃりる

74

< 私の精神病の歴史 >

海田 若菜

タウンページで調べた精神科のクリニックに初めて受診し、半年の療養と治療を言い渡された私は、医師の指示に従いました。それまで行っていたサークルやボランティア活動を辞めて役員等も辞退し、就職活動も諦めました。

この時私は眠れない食べれない不安でいっぱいという状態でした。しかし半年頑張れば良くなるとポジティブに考えようと必死でした。精神科の医師に言われる通りちゃんと薬を飲み、夜は眠れなくてもお布団に入り、日中は起きていました。毎回の診察でどんどん出される薬が増えていきましたが、状態が良くないので医師を信じて従っていました。

一般的に抗うつ薬と呼ばれる薬には即効性はありません。飲み始めて2週間から1か月くらいで効き始めます。なので、薬の効果が感じられなくても、診察に行くたびに次こそ薬になれるのではと期待していました。

しかし、1か月経っても2か月経っても3か月経っても私の状態は良くなりませんでした。医師に少し散歩した方がいいと言われてれば体を引きずって散歩しましたし、陽の光を浴びた方がいいと言われてればそのようにしていました。良くなるはずが、一向に良くなる気配もない状況に私はとても怯えていました。

そして初診から4か月か5か月程経った頃、私は診察で医師に苦しい胸の内を明かしました。「なんでも先生の言う通りにしてきました。でも、全然良くならないし苦しいばかりです。私はどうしたらいいのですか」私は泣きながら医師にすがりました。しかし、返ってきた答えは想像もしていなかった言葉でした。「あなたはもういい大人なんだから、自分のことぐらい自分で解決しなさい」そう言い放たれたのです。

その瞬間、私の中で何かが崩れていきました。医師が病気だと言うから、半年の療養と治療で良くなると言うからそれを信じて頑張ってきたのに、自分で解決しろとはどういう事なのか。病気なら自分の力だけで治す事は出来ないのではないか。なのに何故そのような言葉を言われなければならないのか。

病院の帰り道、私は生まれて初めて自死を考えました。こんなにも苦しいのに、一番の専門家である精神科の医師がわかってくれないなら、一体誰が私の苦しみをわかってくれるのだろう…。私はもう生きていられないかもしれない、そう思いながら家に帰りました。

2023 年ご案内

じんけんにやんだふる



新

じんけん 楽習塾

じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

じんけん楽習塾は1998年から続いている人権学習講座です。

「じんけん」は「他人ごと」でなく、「自分ごと」です。ここにはワークショップで人権を学びたい人、ファシリテーターのスキルを学びたい人、人権学習を企画する人、いろいろな人が集まってきます。出合いが楽しみなのも楽習塾の魅力です!みなさんも参加してみませんか?参加お待ちしております!

日時 2023年5月～7月 全6回 水曜日 18:30～20:30(最長)

参加費 6回通し 3000円(学生2000円)

1回 700円(学生500円)

場所 八尾市文化会館(プリズムホール)4F 研修室

近鉄八尾中央出口徒歩約5分



申込フォーム

◆事前申込: QRコード(右)をよみとって申込みください。

電話、FAX、メールでもお申込みできます。

Bow!



●FAX、メールでのお申込みは、お名前、メールアドレス、所属、連絡先、会場かオンライン参加のいずれかをご記入の上、お送り下さい。

◆Zoom 配信

各回 Zoom 配信いたします。参加費は無料です。ただし、視聴のみになります。

会場でのグループワーク時も視聴になり Zoom 内でのグループワークは原則ありません。ご了承の上、ご参加下さい。

日時	テーマ	ファシリテーター / 講師
1 5/17	ネット社会の部落問題学習を考える	森実さん (じんけん楽習塾・大阪教育大学名誉教授)
2 5/31	インターネットと人権侵害	辻大介さん (大阪大学大学院人間科学研究科教授)
3 6/14	演劇『ほうせん花』、一般市民による ソフトパワーを用いた平和への取り組み	納谷昌宏さん (元愛知教育大学教授)
4 6/28	性教育～幸せに生きるための教育～	松村真帆子さん (さち助産院まこっちゃん家)
5 7/12	子どもが地域で育つために	関口淑枝さん (NPO 法人子育て運動えん代表理事)
6 7/19	『子どものけんり なんでやねん! すごろく』 おとな体験	松田直美さん (NPO 法人 KARALIN) 橋本麻美さん (えんぱわめんと堺 /ES)

■一時保育あります。申込みは1週間前まで、下記までお問い合わせ下さい。(無料)

■問い合わせ: 一般財団法人八尾市人権協会

TEL 072-924-9853 FAX 072-924-0134 mail oyaoya@oyaoya.org



♪ 歌詞紹介 ♪

Racist Friend / Specials

もしあなたに差別主義者（レイシスト）の友達がいるなら
今がそのときだよ、友達関係は終わりにすべきだよ

それがあなたの姉妹だろうが
兄弟だろうが
いとこだろうが、おじさんでも恋人でも

もしあなたに差別主義の友達がいるなら
今がそのときだよ、友達でいるのは止めるべきだよ

たとえ親友であろうが
他の誰かであれ
それはあなたの夫？お父さん？お母さん？

彼らに言うんだ、見方を換えてって
さもなければ友達ではなくなるよって
今がそのときだよ、友達関係は終わりにすべきときだよ

そう、もしあなたのことを友達だと思い込んでいる
差別主義者がいるなら
今がそのときだよ、友達関係は終わりにすべきときだよ

あなたのことを友達と彼らに言わせるつもり？
今が決心をするべきときだよ、偽らないで

もしそれがあなたの姉妹でも
あなたの兄弟でも
あなたのいとこであろうが、おじさんであろうが、
恋人であろうが

そう、もしあなたが差別主義者なら
わたしたちの友達関係はもう終わり
そしてもしあなたの友達が差別主義者なら
わたしのことを友達だなんて言わないで

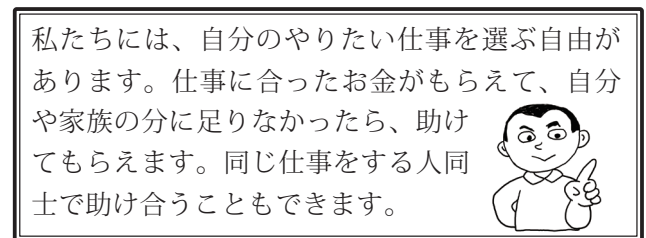
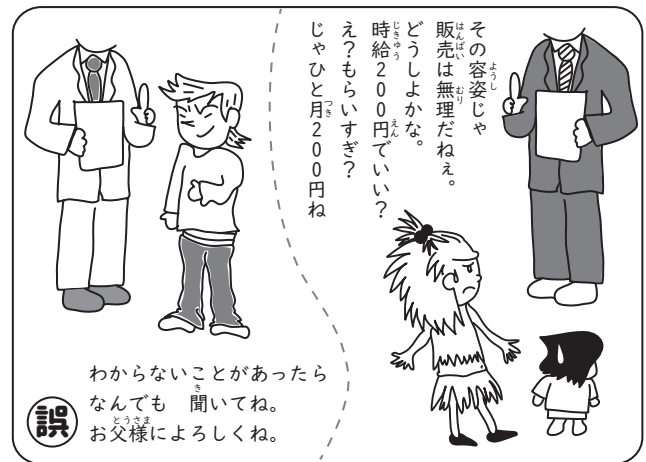
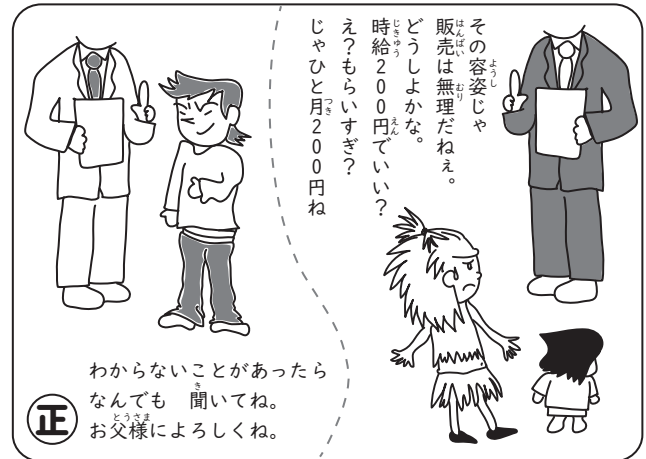
そう、もしあなたに差別主義者の友達がいるなら
今がそのときだよ、わたしたちの交友関係は終わりだよ

さよなら！



世人やお的世界人権宣言
第23条。「やりたい仕事を選
んで、生活を支える」上の
絵が正解。下の絵は、まちが
いが5つあります。探して事
務局まで送ってくださいネ。

正解者には、世界人権宣言
八尾市実行委員会オリジナル
缶バッチプレゼント！➡



■世界人権宣言八尾市実行委員会（世人やお）は、人権尊重のまちづくり、ネットワークづくり、市民活動支援を目的に活動しています。活動に参加してくださる、また支援して下さる会員を募集しています。詳しくは右記へご連絡下さい。

- 団体会員：年額1口 5000円
- 個人会員：年額 2000円

〒581-0004 八尾市東本町3-9-19-312 八尾市人権協会
世界人権宣言八尾市実行委員会 TEL072-924-9853

E-メール oyaoya@oyaoya.org